

【別紙様式 I】 令和7年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立厚木中 学校

厚木市教育委員会の基本目標
 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 佐藤 弘幸

学校教育目標	学校経営の方針
知・徳・体の調和のとれた、心豊かで、たくましく生きる生徒の育成	・たくましく生きる力の育成 ・確かな学力の育成 ・思いやる力の育成

今年度の重点目標

「挑戦」 あきらめずに課題に向き合う 「共生」 認め合い、高め合い、学び合う 「創造」 お互いの個性を活かし、集めて大きな力を手に入れる

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
学校での生徒の幸福度 所属感の充実	1・2・3	重点目標を明確にして浸透させ、生徒と教職員で目標の共通理解を図った学校づくりができるよう努めた	幸福度で87%、所属感で84%の生徒が肯定的な回答をした。数字は伸びているが、引き続き教育相談の充実と、学級経営の工夫を進める。	生徒の所属感・達成感は数値では捉えづらいが、さらに学級集団アセスメントや学級経営に関する職員研修を充実させ、生徒の所属感を高める。
困難に挑戦する生徒の育成	1	学校教育活動全般にわたり、「挑戦」に関するねらいを生徒・教員で共有して前向きに取り組んだ	教育活動に「挑戦」の要素を盛り込んで取り組み、生徒の90%が「挑戦」していると答えているが、目標を持っている生徒は70%にとどまることから、引き続きレジリエンスの向上とキャリア教育の推進が必要と考えている。	生徒自身が受身でなく、学びの調整を行うことを意識させるために、日常生活の中に「探究」を意識させることで、主体性を引き出す方略を考える。
相談体制の充実	2	学級集団アセスメントの導入、グループエンカウンターによる授業で、生徒の自己肯定感の向上に努めた	「悩みを相談できない」と答えた生徒が昨年の15%から8.4%に減少した。支援を意識した取組の効果はあるが、今年度は思いやりのない発言での生徒間トラブルも多かった。機をとらえて指導を重ねたい。	令和8年度は学級集団アセスメントに加え、特別活動や道徳においてソーシャルスキルトレーニングを積極的に取り入れ、コミュニケーションスキルを意図的に高める。
自分の命を大切にするとともに、いじめや暴力を許さない行動がとれる生徒の育成	2	「命」の授業、人権週間での活動やいじめ防止宣言を活用して望ましい学校風土の醸成に努めた	いじめ・暴力を許さないと感じている生徒は93%であるが、数値は減少した。今年度も生徒会の活動で、いじめ防止の取組を展開したが、実生活に根付かせる取組が必要と考える。	取組が形骸化しないよう、生徒会活動に加え、校外の教育資源や学校運営協議会とのコラボレーションを模索する。
体育大会、栄光祭等の学校行事等への意欲 質の高い文化の創造	1・2・3	各行事において縦割り活動を通じた集団作りの充実と、良き伝統の継承に努めた	今年度も内外からも高い評価を得ることができた。縦割り活動の効果が高く、良い伝統を引き継ぐ学校風土を継続できている。生徒・保護者共に95%の肯定的な評価を得ることができた。	生徒が主体的に企画する項目を大切に、行事内容の精選を進め、生徒の達成感を向上させるよう努める。
防災・安全	2	厚木中交通安全の日での事故防止啓発や避難訓練等の充実により安心・安全意識の向上に努めた	交通ルールの遵守については99%の生徒が気がつけていると回答した。幸い大きな交通事故は未然に防げている。防災への備えは生徒の10%が十分でないと感じている。	ヘルメットインフルエンサーの取組を機に、さらに交通安全の啓発に努める。また、避難訓練はより実践的な取組を行い、災害への備えを固めたい。
学力の向上 ICTの積極的な活用	1・3	日常的にICTを活用する授業実践を展開した	ICTの授業に意欲的かについては、94%の生徒が肯定的な回答をしており、活用の幅は広がっている。一方、通常の授業における「AIDリル」の活用は十分ではないので引き続き職員の研修に努める。	授業内での生徒の変容をICTの活用で記録し、主体的に学習に取り組む態度の評価に生かす方略を考える。
中学校の地域貢献 学校教育活動の発信	1・3	生徒の活躍を様々な方法で発信することや、地域行事への協力を機に、生徒への応援をもらえるよう努めた	学校ホームページにおける活動の紹介や、部活動・ボランティアで地域行事に参加して地域貢献に務めた。しかし、地域行事への参加は24.1%にとどまっており、生徒と地域の関わりは少ない。	学校だけでは改善はできないので、学校運営協議会とともに地域の活性化に寄与したい。一方、取組が働き方改革の方向と矛盾しないよう活動を工夫する。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

今年度についても、地域で「厚中プライド」と言われる厚木中らしい学校風土の成果については、各方面からお褒めの言葉をいただいた。本校が掲げる3つの教育指導の重点を、生徒と教職員でしっかり共有し、取組のPDCAサイクルを回しているが、保護者の約16%には未だ伝わっていないとの回答があることから、さらなる積極的な発信と家庭との連携強化が必要と思われる。また、学校運営協議会では「選択と集中」による学校教育活動の精選について、分科会などで熟議を重ねているがまとまった結論には至っていない。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

教育目標を明確にすることでの取組は功を奏し、教員や生徒の「合い言葉」として定着しつつある。このことから、さらなる学力の向上と質の高い文化の創造を狙う次のステップに移りたいが、多様な生徒・保護者への対応や、生徒たちの各方面での様々な活躍が多くなると、明らかにマンパワーが不足している状況となっている。今後は選択と集中を念頭に入れて持続可能な教育活動を模索する必要があり、学校の役割そのものを精選することが急務と考えている。また、生徒同士のコミュニケーション不足からなる対人・SNSのトラブルが日常に散見されることから、スキルアップを図るためにソーシャルスキルを意図的・計画的に指導していく必要があると考えている。